

CHIT CHAT RADIO 子育て CHAT ROOM

2021年12月21日 15時13分～15時35分



驚きの海外事情【アメリカ・ブラジル・中国の出産・子育て】

— 今日も子育てに関するお悩み、役立つ情報を鈴木先生に伺っていきます。
鈴木先生、こんにちは。

こんにちは、よろしくお願いします。

— 本日、先生お迎えして伺っていくのが、実際に経験した海外の出産、子育て事情についてという感じです。

— ちょっと興味ありますね。

— そうなんです。鈴木先生とずっとこのコーナーで一緒にさせていただいてましたが、実際先生がどこで出産、子育てをしたかって、日本だと当然思っていたんですが。

— しかも、今までの話も日本の今の社会の中でこうあったらいいなとかいうお話を聞いていました。これ興味深いですね。

— そうなんです。まず伺うのが、先生はアメリカで出産を経験されたということですが。

— そうですね。一人目がアメリカです。

— 一人目からアメリカとは、不安や戸惑いもかなりあったんじゃないですか？

— それまでにそこには数年住んでいたんで、あまり不安はありませんでした。初めてで比べるものもないですし、全てがそんなもんなんだと思って経験しました。ですが、日本に帰ってきて日本の出産をすると全然違うなと思いました。

— 何が違うんですか？

— 例えば、入院するのが大体一泊二日なんです。先生がアメリカなのにタイ人だったんですけど、先生のオフィスに健診に行くんです。でも、出産は大きな総合病院で、先生がそこに出張して、私もそこで産むっていう「オープンシステム」だったんです。

— それが普通なんですか？

基本的にはそうなんです。

―そもそもアメリカで出産。お仕事でアメリカに滞在されていた時の出産ということですか？

私はアメリカに留学していたんですが、学生結婚で学生の間に出産をしたんです。

―日本だと出産後一週間ぐらい入院しますよね。よくイギリス王室の出産がワイドショーなどで報道されて、次の日にもつ出てきちゃってる映像を見るたびに衝撃なんですよね。

―日本では一週間ほどは入院するのが常識なんですね。

―そうなんです。産んで、すぐ出てきて赤ちゃん抱いて、報道陣に手を振ってるなんて！あれを見ると、体の作りが違うのかなど。私はよたよたで、廊下の手すりをつかみながら歩いたのに。アメリカで出産するのと有無を言わず出られるってことなんですか？

そうですね。私、ハワイ大学にいたので、学生の時にフラダンスの授業を取ってたんですよ。火曜日と木曜日で、火曜日の時に授業に来てた人が、子どもを木曜日ぐらいに産んで、その次の火曜日には授業に来て踊ってたんですよ。びっくりでした。

―フラダンスの授業に？

―フラダンスの授業、お休みされた方がって思ってますけど。(笑)

体のつくりが違ってたなって、私も思いました。結構、アメリカやイギリスだけじゃないみたいですけどね。一泊三日くらい入院して。でも、アメリカにもありますよね。日本なら病院で子どもの沐浴の仕方とか、おっぱいのあげ方とか色々教わるじゃないですか。それが一切ないんです。だから困るんですよ。

入院中にかかりつけの小児科医が来てくれるんです。「僕が君の赤ちゃんの担当になるからよろしくね」「名前刺さるの困ったら電話してね」と言われて。帰ってきたら、早速四、五時間泣き止まなくて困ってしまい、真夜中の二時に電話をかけました。「泣き止まないんですけど、ぐっぐっぐっぐっぐっぐっぐっぐっぐっぐ。先生が相談に乗ってくれて。

―夜中の二時でもちやちやと対応してんだよねいました？

そうですね。「砂糖水を飲ませてみたら」と言われました。

— 親切な先生ですね。

そうですね。— 泊三日で帰すから、その代わりそういう対応しますってことなんでしょうね。

— 病院にいる時間は短いけれども、その後のケアはきちんとしてくれるシステムがある。

— と言いつつも、例えば一週間後や二週間後に見せに来てとかは特になかったですね。

— そうなんですね。日本ではありますね。小児科の先生じゃなくて保健師さんがね。必ず来てくれますけど、全然違いますね。

— 驚きました。いきなりそんなに違つんだ、もう産んですぐ出てくれるって。

— あと医療費も違いますよね。

— そうですね。— 泊三日で百万円かかっちゃうじゃないですかね。

— 日本はどのなんですかね。

— 日本はおそらく四十二万円くらいですかね。今、ちょっと分からないですが。

— おそらくこの割には割と正確な数字です。(笑)

— 助成金内で大体払えますよね。お休みの日とか土日にかかったりすると、その分ちょっと上がったりかするんですが、大体それでいいです。

— そうですね。アメリカでは、会社が加入している民間保険でカバーできる病院や先生にお願いするのが、百万円かかるけど実際払うのはほぼゼロになります。

— だけど、アメリカの場合は全員が保険に入ってたったりするんですね。

— そうですね。

— 今、アメリカでの出産のお話を伺いました。子育てはブライジルで聞いていますが。

—なかなかすごい経験されてるんですね。

—南半球に行きましたよ。ブラジルの子育てっていうと底抜けに明るい。勝手にリオのカニバルを思い浮かべちゃうんですけど。実際どんな子育てをブラジルではされてるんですか？

そうですね、私はリオデジャネイロに二年いて、その後サンパウロに一年いたんですけど、ブラジル人はすごく子ども好きなんです。「異性と出会いたければ赤ちゃんを抱け」って言われて、赤ちゃんを抱っこしてると「可愛い可愛い」ってみんな寄ってくるんですよ。それで寄ってきた男の人や女の人に「この赤ちゃん、兄弟の赤ちゃんだから」って言って、そのまま親しくなることができるってわけです。だから、私が子どもを抱っこしていると、わーってブラジル人が寄ってくるんですよ。抱っこしたり、チュッチュしてきますよ。

—なんかすごいいいね、お国柄だなんて思います。

そうですね。ブラジルはポルトガル語なんですけど、私が最初に覚えた単語が bonita (ポニータ)とか linda (リンダ)でしたね。ブラジル人が子どもに向かってよく言ってたので。[muito bonita (マイント ポニータ)]って言うわーって寄ってくるんですよ。

—bonita (ポニータ)って「可愛い」って意味ですよ？

可愛いでよね。

—女子のサッカーチームで bonita (ポニータ) っていますね。

—私が昔飼ってた犬がポニータでした。(笑)

あと、日本とはすごく違うなと思ったのが、哺乳瓶でね、六ヶ月ぐらいの赤ちゃんにグアラナっていうコカ・コーラみたいな炭酸飲料を飲ませてたんです。

—炭酸ってうちの子ども小学2年生ですけど、周りのお友達が炭酸のジュースが飲めるようになったからって、もうすごい顔しながらおいしーって我慢しながら飲んでますよ。背伸び中。

なかなか炭酸って飲めないですよね。うちの子が三歳になった時に幼稚園に入ったんですが、子どもの誕生日パーティーにケーキと飲み物を同じクラスの子に振る舞うことになってたんですね。私がスーパでオレンジジュースを買ってたら、ママ友が来て「あなた、何買ってるの？」って言うから、「誕生日パーティーのジュースだ」って言ったら、「こんなの誰が飲むの

よーこれでしょー」って、グラナチをカートにガンって入れるんですよ。三歳の子にこの「カ・コ」
ーラみたいなの、シユフっていうやつ飲ませるんだと。

ーもうね、ゲスゲフ言っちゃうじゃないですか。

ー面白いなあ。

ーでもそれがブラジルのスタンダードってことですね。

スタンダードというところ、ブラジルって貧富の差が激しいんですね。中流階級以上だったら住み込みのお手伝いさんがいるので、夫婦で働いて、家のことは基本的に全部お手伝いさんがやるんですね。日本みたいに仕事に家事、育児をお母さんが髪振り乱してやっっていることはないです。

ーお母さんでもすげ〜綺麗〜

はい、やることは仕事と子育てだけ。まあ、子育ても雇っちゃう場合がありますよね。双子なんか産んだら、双子用に二人雇って、あと家のことをやる人に一人雇つとか。

ー子育てができてくれるような方を雇えるような仕組みができてるわけですか。

近くにファベーラっていう貧民街があるから、そこから働きに来ることが多かったですね。

ー仕事を続けながら、子育ても任せるとこは任せ、母親としてすべきことはするっていうことが比較的スムーズにいける感じだったんですか？

そうですね。それが当たり前だったので、私は専業主婦でしたけど、うちも通いで来てもらって、子どもをその人に預かってもらって、よく〜飯を夫と食べに行っていました。

ー夫婦っていろいろのが、ちゃんと保つていこうな仕組みっていろいろあるんですね？

そうですね。

ーいろいろしてもね、小さな子がいると子ども中心になりますよね。出かけることもいろいろが面倒みるんだとか。子育てする上で夫婦っていう単位を大事にするのお国柄なんですね。

アメリカも十二歳まではベビーシッターをつけないといけない法律になってるので、中高生

を雇って、子どもを預けて夫婦で食事に行くとかそういうのはよくありますね。

—日本では夫婦でご飯食へ行こうと思ったら、おばあちゃんに預けるとかね。おばあちゃんが出てくれたら、ラッキーだと思えますけども、なんだかちよつと後ろめたい感じですよ。本当に国が違えば、ぜんぜん違いますね。

—驚きの話ばかりですね。

—今、アメリカ出産、そしてブラジルでの子育てときました。なんと中国でも過ごされたことがあるそうですね。

中国は一年だけで、北京から飛行機で2時間くらい内陸の河南省ってところまで。

—それは何をしに?!

夫が調理師で、ホテルで働いてたのでついていきました。

—すごいですね。常識はもうそれぞれの国で全然違うなと思います。

私、日本は中国の文化をかなり取り入れてるという認識で、仏教などもあちらからですよ。

—やっぱり中国の文化を学んで、今の日本があるという感じですよ。

そうですね。だから日本と似たようなところが多いかと思っていたら、ブラジルより違ってたんですよ。中国人はブラジル人よりかなり違う人たちで、これはすごいカルチャーショックです。

—例えば何ですか?!

例えば、男女平等どころか、家で料理するのは男で、逆転してるくらいなんです。街でもく取っ組み合いの喧嘩してるんですけど、女です。殴り合いみたいな喧嘩を女がよくしてる。

—びっくりしますよね。

後、やややっぱアイアイですよ。排せつ行為を恥ずかしいと思わない。アイアイがなにごとが多いですよ。

―都市部のホテルでもそんな感じ？

都市部のホテルだったらドアもあって綺麗なところはあるけど、私が住んだところは地方都市で、伝統が残ってる。便器の前が通路の方に向いてるので、よく「二ハオトイレ」と言われますよね。待つてる人と目と目があっちゃう。(笑)

―「二ハオ」って言うんですね。(笑)あんまり挨拶したくないですけど(笑)

あと衝撃的なのは、子どもの股割れズボンですかね。

―それは私も聞いたことがあるんです。あれすごいと思っ。

私がいたのは二十年前だからなのかなと思うたら、今でもあるそうですね。大都市では少なくなりつつあるらしいですが、地方ですとまた割れズボンを使うので、オムツはしないで垂れ流すんですよ。スーパーでも道端でもどこでも垂れ流しちゃう。

―メリットとしては何がいいから、その伝統が続くんですか？

おむつを買わなくてすむのが一番ですよ。当時、月給一万円くらいがスタンダードな給料形態なのに、オムツは日本と同じくらいだから買えないだろうと思います。

―日本と同じくらいいいってね、大体あの一箱二千円弱くらいしますからね。

―給料が一万円じゃ、高すぎですよ。でもきたら買わないですませたいですよ。

確かに。でもやっぱり衝撃的で。ブラジルはちゃんとトイレあったし、おむつも使ってたし。

―文化が違うんですね。

―中国は日本の源流かと思いきや全然違っていて、どちらかと言っと、日本は欧米に近い感じで。

そうですね。あ、うちの子が行った幼稚園は全寮制だったんですね。

―幼稚園で全寮制？

両親が働いてて、平日に子どもを面倒を見れないから、全寮制に預けて土日だけ帰るんで

すね。中国にいくつあるかわかりませんが、地方都市であったから、珍しくはないのかな。

—びびっくりですね。幼稚園で全寮制っていうのが。子育てやるのは週末だけで。

そうですね、自分が時間ある時だけ子どもを見る。

—子どもたちは、お父さんお母さんに会いたいつてならないんですか？

なりますよね。子どもの発達にはよくないと思いますけどね。他の国では子ども一人を大人一人がみるのは時間的にロスがあるから、村の子どもをみんなで、当番制で面倒見るやり方をした所があるんですよ。そのように育った子どもは、大きくなった時に無気力で、人に対して無関心で社会性に欠ける、いわゆる非認知能力が全然育たない人間になったんですよ。

—そういうところあるんですか？

イスラエルのキブツってところなんですけどね。集団保育は必要なんですけど、基本は、家庭で愛着を作ることが大事なので、中国の全寮制幼稚園もどうかなって思いましたけどね。一歳から預けるのはいいと思うけど、二十四時間家庭外で過ごすのはカルチャーショックですね。

—その中で、いろんな環境で育ってきたお母さんはいかがですか。

そうですね。海外に興味を持って、海外の大学に行って、そのまま就職している子もいますし、日本が好きで日本にとどまっている子もいますね。海外生活をしたことは、勉強にせよ、就職にせよ、選択肢が広がっていいのかもしれないですね。

—海外の良々で日本では今ないけど、取り入れた方がいいところは何かありますか？

そうですね。海外から帰ってきて思ったのは、日本人のお母さん頑張りすぎているところですよ。子育てもするし、家事、炊事全部やる。向こうの人たちは外注したり、子どもを気軽に預けたりしてますね。もっとお母さんが、楽に過ごしているように見えたんですよ。

今後、少子高齢化が進んでいく中で若い人は仕事を続けることってすごく大事だし、子どもを産み育てることも大事です。ですから、若い人たちの生活を支えるためにも、家事とか炊事は高齢者が担当できればいいのになと思うんですよ。住み込みじゃなくていいから、通いで来てもらえて、負担は行政が補助してくれたら助かると思います。頑張りすぎると、お母さんが疲れてくるし、子育てにも余裕がなくなってしまうよね。

トリプルP前向き子育てプログラム
参加者募集
 ～すべてのお父さん、お母さんのために～



親子で幸せになれる
「子育てのヒント」を学ぼう

※トリプルPとは世界25か国以上で
実践されている最新の科学的子育てプログラムです。

1/29～3/19 (土) 9:30～11:30
 5回講座＋3回電話相談
 (詳細は裏面をご覧ください)

- 対象 子育て中の保護者(祖父母の方、歓迎します)
- 講師 小鹿えり他(トリプルP認定ファシリテーター)
- 参加費 5,000円(テキスト代など実費)
- 定員 10名
- 場所 三木町役場会議棟2階(三木町永上310番地)
- 駐車場 無料
- 託児 託児 ご相談ください

お申込み・お問合せ
 NPO法人 親の育ちサポートかがわ
 TEL:087-891-2465(南川大学医学部附属生 鈴木)
 E-mail:oyasapo_kagawa@yahoo.co.jp



毎週1回、合計8回のプログラムで、内容は下記のとおりです。

セッション	内 容	ワーク形式	時 間
第1回 1/29 (土)	「前向き子育て」とはどのような子育てなのかについて学び、子どもの行動の捉え方について話し合います。		
第2回 2/5 (土)	子どもと良好な関係を築くための、30のスキルを学びます。	講 義 グループワーク ロールプレイ	9:30 ～ 11:30
第3回 2/12 (土)	対話が難しい子どもの行動をうまく捉えるようになるための、7つのスキルを学びます。		
第4回 2/19 (土)	対話が難しい子どもの行動が起こる背景を理解し、その行動が起こらないように構造的な計画的な活動を学びます。		
第5回 ～ 第7回	先のセッションで学んだスキル各に家庭でうまく活用できているかを確認し、お母様ご自身が工夫しながら子育てしていただけるようサポートします。	ご自宅での 電話相談	毎回 20分 程度
第8回 3/19 (土)	子どもの行動の好ましい変化について話し合い、プログラムで学んだスキルの復習を行います。	講 義 グループワーク 全体のまとめ	9:30 ～ 11:30

第5回～7回は個別の電話相談になります。
 参加者様のご都合のよい日時にファシリテーターがお電話をかけ、ご家庭での子育てについて話し合います。

ひと足先にプログラムに参加されたお母様方の感想です！

～～～～
 最初の2歳児の振り返りから日々で、何かを覚えてきて受講してました。子育てでテクニックがあるということ、理論的な結果など分かりやすい手順で学びました。

この受講を通して、**私自身が悩んでいたことが本音によかったです。**(30歳代母親)

3人の子育てをしてきて、3人共性格も気質も違うので、どうしていいかわからない子には選んだの下の子には選んでいない。子育てでの自信を失くしていました。でも、トリプルPの技術を使い、試みているうちに、自分自身の気持ちの整理がはかばかしくなりました。おもしろいのは子どもとが関わって来ました。**私たちが親がこのような状態を知ることで、子どももストレスを減らすために書けるのではないかと感じます。**また、書いても読むのが楽しくなりました。このトリプルPの役割・テクニックは一定の場面に役立つと驚きます。(30歳代母親)

NPO法人 親の育ちサポートかがわのHPで、「トリプルP受講者の声」や「トリプルPとは」を読むと参考になりますのでどうぞ！

ありがとうございます。

鈴木先生、今月もありがとうございました。

はい、一月二十九日から「トリプルP:前向き子育てプログラム」を連続講座で開催します。毎週土曜日の午前九時半から二時間、三木町役場の建物で行います。子どもの癇癪や、動画ばかり見たがるなどで困っている方、良い親子関係を築きたい方は是非、参加していただけたらと思います。また、NPO法人親の育ちサポートかがわのホームページからお申込みできます。

先生、今後の予定などありましたら是非、最後にお伝えいただけますか？

地域の方がお手伝いに来てくれたり、それがちょっとしたお仕事にもなったりして、家庭経験が生かされるようになればいいですね。

なるほどね。これは、これからの課題かもしれませんね。

もちろんですよ楽しんでやってあげたいですね。

みんな頑張りすぎる方に行っちゃって、もちろんついていけない人もいるでしょうね。そうなるストレスがお子さんに向いてしまつのも影響が心配ですね。

前みたいに大家族っていうのはなくなって、核家族がそれぞれやるようになってしまったんですね。でも働くお母さんっていうのは、ネットで情報を得て、みんな同じように子どもを育てたいっていう思いも強い方も多いので、そうするとどんどん自分自身がやらなきゃいけないことっていうのは増えていく一方なんです。これもやっとなんか自分自身がやらなきゃいけないっていうのは、私も保育園で送り迎えしてますが、みんな朝が一番疲れてますね。